

浅野さん：

8月26日午後5時21分、浅野さんは52歳という若さで、突然亡くなられた。その日の内に、東京交通新聞の二村常務から私の携帯に連絡を頂いたのだが、その時は気が付かず、翌朝に折り返しの電話をいれて、初めて知った。

始め、良く意味がわからなかった…。そして暫くして、亡くなったのは浅野さんなのだど気付いた…。それほど突然だった。13日には会社の前のガストで、3時間も話をしたばかり。そ



して20日には、差し上げた書籍への16日付の丁寧な礼状を受け取ったばかりだった。23日の金曜日にも、御客様にも挨拶に行かれたという。自分が会った時も元気があったし、そしてこの時の日曜日に御自宅で容体が急変し、救急車で東京女子医大に搬送後、緊急入院となり、そして翌26日亡くなられた。しかし、浅野さんの死は、自分には、ある意味半ば「覚悟の死」であったような気がする。あるいはファイティングポーズを取りつづけ、立ちつくしたままの、まるで弁慶のような亡くなり方だった。

昨年の4月：

昨年の4月に食道ガンをみつき、抗ガン剤治療や手術を繰り返した。しかし、強靱にも10月に職場に復帰した浅野さん。その間、病に立ち向かいながら、オリジンの毎年恒例の全タク連、全自無連への総会向けユーザーの

清野吉光氏のコラム 第58回

## 団塊耕志録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年(株)タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。



「さよなら浅野さん」



広告記事を作り上げてくれた。取分け、昨年はチームネクストの設立のキーパーソンの一人であった静岡市の千代田タクシーの加藤社長への熱心なインタビューを下に、連続広告を浅野さんが発案し、そして、成し遂げてくれた。

今から思えば、正直仕事どころではなかったと思うのだが、きつちりと形をつけて、入院されていた。浅野には比較的早い時期から病名を告げてくれた。そして抗ガン剤治療後の一時的な退院の折にも、体がきつい状態なのに、浅野さんの自宅近くのマグドナルドで何回も会ってくれた。当然こうした厳しい病気であるが故に、浅野さんもさぞかし不安に駆られていただ

ろうし、実際御本人もそれを口にする時があっても、しかし話の大半は、これから立ち上げようとするチームネクストへのアドバイスであり、タクシー業界の行く末や、その中でオリジンがどうして行ったらよいかについての助言や励ましであった。一度などは話に熱中して、6時間を超えた事があり、ガンと闘病している人への配慮に、あまりにも欠けてしまったと反省した事もあったが、その後のメールで「楽しく御話できました」とあったので、一安心した。

20年間のお付き合い：

浅野さんとの付き合いは、実は非常に長い。1993年に、オリジン関東支店の事務所兼住居を京成線千住関屋前のマンションに構えた。早速、浅野さんに広告をお願いするために来社して頂いたが、薄暗く殺風景な事務所と住人を見て、「この会社大丈夫か？」と、きつと思つたに違いない。でもなんとかお付き合いを始

めて下さって、20年になつた。本当に長い付き合いだ。そしていつの時期からか「顧客を超えた仕事仲間」と捉えて下さるようになった。オリジンの歴史の中でエポックメイキングとなるような出来事で、浅野さんの提案やヒントで実現したり、内容が深まったりした事がいくつもあつた。例えば2004年六本木ヒルズでの「タクシーの近未来を考えるシンポジウム」特別協賛事業である。このイベントの最初のきっかけは弊社の内田常務の営業的直感で、当時建設間もない話題性のある六本木ヒルズで、セミナー展示会をやったら!というアイデアであつた。そのアイデアを「総合生活移動産業」をキーワードとして「タクシーの近未来を考えるシンポジウム」として発展させ、タクシー問題懇談会に主催をお願いする事によって、タクシー業界、行政に参加して頂けるスキームにヒントを下さつたのは、浅野さんなのだ。そして東京交通新聞への全面広告の清野名のメッセージま

で考えてくれ、さらにその全面広告をカラー刷りのポスターにし、各方面に配布する事も提案された。

この「タクシーの近未来を考えるシンポジウム」はシンポジウムの締め挨拶をして頂いた東京交通新聞の二村社長に「成功だった」と評価して頂いたが、特別協賛したオリジンにとつても「地方の一ソフトハウス」から、はじめて全国のタクシー業界に一定の存在感を持つ「ソフトハウス+α」の会社として認識して頂けるきっかけになつたのではないかと思う。

そしてもうひとつ、浅野さんから大きなヒントと助言を頂いたのは、本年2月に正式設立の運びとなつたチームネクストの企画と推進である。チームネクストは清野の企画というより、タクシー業界の将来に繋がる事にお役に立ちたいという、浅野さんの厳しい病から得た心境から、徐々にアイデアが深まり、その想いと内容をつばめ自動車の天野社長にご相談させて頂いた。結局、浅野さんは一

度もチームネクストの「見学&セミナー合宿」に参加する事はできなかったが、闘病中でもセミナーのビデオを熱心に繰り返し見てくれた。

思えばオリジンは浅野さんをはじめとして、その時々にはオリジンを陰に陽に支えてくださった周りの人々に支えられて、今年30周年を迎える事ができたとつくづく思う。オリジンが単独、ましてや清野独力の力は微々たるものでしかない。浅野さんの思い、そして昨年7月に他界したオリジン佐藤会長の思い、そして様々な形で助力して下さつた方々の思いに出来るためにも、オリジンの使命を深く考え、一層努力しなくては、と思う。

### 加賀市長選

オリジンの現在掲げている使命とは「ITで総合生活移動産業創造を支援する」という事であるが、この総合生活移動産業というビジョンは実は、2000年に

東京交通新聞から「モバイル交通革命」を出版され、その中で、現加賀市長である寺前秀一氏が提唱されたコンセプトである。その加賀市長の選挙が今年10月6日に行われる。2期目に挑戦される寺前さんが再選の暁には、いよいよこの「総合生活移動産業」への御自身のトライを始めたと同っている。是非当選して頂いて、この業界に新しい風を吹き込んで頂きたいと思う。業界からの御支援もよろしくお願いしたい。



### 最後に

あまりにも突然に逝ってしまった浅野さんの想いを引き継ぎ、浅野さんの様に最後までファイティングポーズを取り続けて行きたいと思う。

(2013年9月23日)